

長寿医療研究開発費 平成23年度 総括研究報告

高齢者医療体制の構築に関する研究（23-40）

主任研究者 鳥羽 研二 国立長寿医療研究センター（病院長）

研究要旨

世界に類をみないスピードで高齢化する我が国において、さらなる健康長寿を達成するとともに社会の高齢化に伴う諸問題に対して有効な策を講じることは喫緊の課題であり、[新成長戦略]においても超高齢社会に対応した社会システムを構築し、すべての高齢者が家族と社会のつながりのなかで生涯にわたり生活を楽しむことができる社会の構築を目指す。そのためには、高齢者の健康と福祉、社会参加、衣食住とその条件整備、年金、メンタルケアなどを幅広く学際的に研究する分野である老年学と高齢者の医療に関わる老年医学をさらに発展させることが重要である。このような考えに基づき、平成21年、日本学術会議臨床医学委員会において北徹（神戸市立医療センター中央市民病院院長）を分科会長として老化分科会が設置された。本分科会において提言されたのは(1)医学以外の他領域との協同で行う高齢者の社会参加、社会貢献を可能とするシステムの開発とその推進、(2)老年学の推進と老年学・老年医学の学部・大学院・卒後教育での整備・充実、(3)各地域に高齢者医療センターを設置し、老年疾患研究・高齢者医療におけるエビデンスを国家規模で蓄積、(4)在宅医療・チーム医療・チーム介護のシステ

ム開発とその推進の4つである。いずれの提言も国立長寿医療研究センターの中期計画と関連し、我々の果たす役割は大きい。本計画においては今回まとめられた提言を広く医療・介護専門職、及び老年学・老年医学の研究者などに公開するとともに日本における高齢者医療に関する議論をさらに深めるため、「**日本における老年学・老年医学推進のためのシンポジウム**」を企画することとした。本シンポジウムにおいては本研究の主任研究者が高齢者医療体制構築に関する発表を行うとともに、老年学、老年医学の推進、教育体制、地域医療につき成果を発表し、総合討論を行う予定である。なお、日本老年医学会ホームページで参加者を募るとともに、ポスターを作製して地域医療に携わる医療・介護専門職の参加を促す。本シンポジウムの開催により、老化分科会で行った提言をもとに老年学・老年医学の今後の発展に向けた議論を深めるとともに国立長寿医療研究センターの今後の健康長寿社会の実現に向けた役割について考える機会となった。

主任研究者

鳥羽 研二 国立長寿医療研究センター (病院長)

A. 研究目的

現在の日本においては65歳以上の高齢者人口は22%を超えているが、今後20年以内に日本人の5人に2人が65歳以上という“超高齢社会”が訪れるのは確実である。日本は平均余命のみならず、健康長寿年齢でも世界一であるが、認知症患者や要介護者は今後着実に増加すると考えられ、高齢者を診療する医師の診療技術・知識の急速な向上、生活習慣病予防の飛躍的進歩、認知症などの老年症候群の予防法の確立、在宅医療や地域の介護力の飛躍的拡充などが計られないかぎり、行き場のない虚弱高齢者が地域にあふれ、大きな社会問題となることは避けられない。療養病床の大幅な削減、急性期病院の入院日数の短縮、在宅医療の充実の遅れによって、安心できる死は本当に迎えられるのか、死生学は社会の変革に込んでいるのか、など取り組むべき課題は多い。また、高齢者の虐待、介護者の介護疲れ、尊厳死、経管栄養などの社会的問題も検討すべきである。特に高齢者にとって尊厳のある医療が行われるためには、死の直前の死周期だけでなく、その前の年余にわたる衰退の時期における適切な医療と介護が求められる。

しかしながら、いまだに日本においてはこれらの諸問題に対して取り組んでいる老年学・老年医学に対する理解が乏しく、その医療・教育における中味の充実がなされていないのが現状である。従って、その方策として、医学、看護学、介護学、福祉学、社会学、理学、工学、法学、経済学、心理学、倫理学などの諸科学が有機的に連携・協働し

て取り組むことが求められる。さらには老年医学の学部教育・大学院教育の整備・充実をはかり、老年医学教育・医療を実地可能な専門医を育成することが必要である。また、現実に高齢者の診療に当たっている、あるいは将来的に当たることになる他の専門医やかかりつけ医の高齢者医療への理解を深めるためのシステム構築も行うべきである。このような課題に対する提言を行うため、日本学術会議臨床医学委員会においては平成21年老化分科会を設置することとなった。本計画においては本老化分科会においてまとめられた提言を広く公表するとともに、今後の日本における老年学・老年医学推進、長寿医療の普及に向けた人材育成、地域医療に関して議論を深めることにより、健康長寿会の実現に向けた我々の役割を果たすための企画であることが特色である。

B. 研究方法

(1) 全体計画

本計画においては日本学術会議臨床医学委員会老化分科会からの提言、すなわち(1)医学以外の他領域との協同で行う高齢者の社会参加、社会貢献を可能とするシステムの開発とその推進、(2)老年学の推進と老年学・老年医学の学部・大学院・卒後教育での整備・充実、(3)各地域に高齢者医療センターを設置し、老年疾患研究・高齢者医療におけるエビデンスを国家規模で蓄積、(4)在宅医療・チーム医療・チーム介護のシステム開発とその推進に関する内容を広く周知するとともに、今後の我が国における老年学・老年医学の発展のための議論を深めるため、以下のシンポジウムを開催する。本シンポジウムの開催に当たっては老年医学会のホームページなどを通じて広く参加を募ることにより、医師、看護師、療法士、薬剤師などの医療専門職だけでなく介護福祉士など介護専門職、200名程度の参加が見込まれる。

シンポジウムの概要は以下の通りである。

テーマ：日本における老年学・老年医学推進のためのシンポジウム

日程：平成23年9月14日（水）午後1時より午後3時半まで

場所：東京大学山上会館

司会：北 徹、大内尉義

開会の挨拶 北 徹

1) 日本学術会議臨床委員会老化分科会からの提言について：北 徹、大内尉義

2) 老年医学の卒前・卒後教育の現状と展望：下門顕太郎

3) 老年学の推進と研究、教育体制構築の展望：荒井秀典

4) 高齢者医療体制をどのように構築していくか：鳥羽研二

5) 在宅医療・チーム医療、介護システムの開発とその意義：三浦久幸

総合討論

まとめと閉会の挨拶 大島伸一

(2) 年度別計画

本計画は平成 23 年度単年度のものであり、研究計画の全体はすでに記載したとおりである。しかしながら、今後もこのようなシンポジウムの開催により老年学・老年医学の重要性に関して医療従事者、研究者だけでなく広く一般市民にも啓発活動を行うことが必要である。

(倫理面への配慮)

本計画は日本学術会議臨床医学委員会老化分科会の成果を広く公表し、老年学、老年医学の重要性を啓発するためのシンポジウム開催に関するものであり、倫理的な問題は生じない。

C. 研究結果 別添資料 1 参照

D. 考察と結論 別添資料 1 参照

E. 健康危険情報 なし

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 鳥羽研二：ウィズ・エイジング～何歳になっても光り輝くために・・・～，グリーン・プレス，1～247，2011.東京
- 2) 藤谷順子、鳥羽研二（編著）：誤嚥性肺炎 抗菌薬だけに頼らない肺炎治療，医歯薬出版（株），1～213，2011.東京
- 3) Kenji TOBA:Relationship between testosterone and cognitive function in elderly men with dementia, JAGS 0:1-2, 2012.
- 4) 鳥羽研二: 認知症の周辺症状に対する抑肝散のエビデンス，協和企画，漢方医学, Vol.35 No.2:118(22)～122(26), 2011.
- 5) 鳥羽研二：アルツハイマー病における中核症状と BPSD の治療の基本，メディカルレビュー Cognition and dementia vol10(1):12～17, 2011 .
- 6) 鳥羽研二：高齢者医療と漢方，診断と治療社，診断と治療 99(5):835(107)～838(110), 2011.
- 7) 鳥羽研二：認知症の診断と非薬物療法について，全国老人保健施設協会誌，老健 7:18～25，2011.

- 8) 鳥羽研二：老年内科 標榜をめざして 老年症候群の考え方と高齢者の寝たきりの原因と対策，日本医事新報社，日本医事新報 No.4552：43～46，2011.
- 9) 櫻井 孝、鳥羽研二：特集 慢性腎臓病（CKD）と認知症 III認知症の予防と治療，日本臨牀社，臨牀透析 Vol.27(8)：21（1041）～26（1046），2011.
- 1 0) 鳥羽研二、木村紗矢香、山田如子、町田綾子、神崎恒一：手段的 ADL と基本的 ADL，日本臨牀，69（8）：313～318，認知症学（上）P.313-318，2011.
- 1 1) 鳥羽研二：どんとこい！認知症 重度認知症患者デイケアの挑戦，認知症の包括的アプローチ，創造出版，135～153，どんとこい！認知症，2011.
- 1 2) 鳥羽研二：高齢者の総合的機能評価，長寿科学振興財団，Aging & Health，20(3)：6～7，2011.秋号 No.59
- 1 3) 鳥羽研二：服薬コンプライアンスとアドヘレンス，日本臨牀，認知症学（下）P.22-25，2011.
- 1 4) 鳥羽研二：（企画含）老年医学・医療の最先端，医歯薬出版社，医学のあゆみ 239(5):323,418-424,2011.
- 1 5) 鳥羽研二：認知症の治療 非薬物性治療を含む認知症の治療について．日本老人保健施設協会誌 9:28-32, 2010.
- 1 6) 鳥羽研二：認知症の治療 認知症の診断について．日本老人保健施設協会誌 9:22-26, 2010.
- 1 7) 鳥羽研二：認知症に対する総合的アプローチが今求められている．医療の広場, 8:4-7, 2010.
- 1 8) 鳥羽研二：認知症の周辺症状と介護負担感に対する抑肝散長期投与の効果．日本老年医学会雑誌 47:262-263,2010.
- 1 9) 鳥羽研二：認知症に対する包括的アプローチ．日本認知症学会誌，Dementia Japan，24:161-168，2010.
- 2 0) 鳥羽研二：認知症診療マニュアル．神経内科，科学評論社，182-187，2010.
- 2 1) 鳥羽研二：認知症短期集中リハビリテーションの効用．医薬ジャーナル社，CLINICIAN，588:112(474)-116(478)，2010.
- 2 2) 鳥羽研二：認知症．南山堂，治療，92:119-121，2010.
- 2 3) 鳥羽研二：地域医療を見据えたもの忘れセンターの取り組み．日本老年医学会雑誌 46(3)：200－202，2009.
- 2 4) 鳥羽研二、守屋佑貴子、中居龍平、岩田安希子、小林義雄、園原和樹、長谷川浩、神崎恒一：アルツハイマー型認知症の意欲の低下に対するコリンエステラーゼ阻害薬の効果．日本老年医学会雑誌 46(3)：269－270，2009.
- 2 5) 秋下雅弘、荒井啓行、荒井秀典、稲松孝思、葛谷雅文、鈴木裕介、寺本信嗣、水上勝義、森本茂人、鳥羽研二：老年病専門医の副作用経験と処方態度に関する NHK との共同アンケート調査（高齢者薬物療法のガイドライン作成のためのワー

キンググループ委員会報告). 日本老年医学会雑誌 46(3) : 271-274, 2009

2. 学会発表

- 1) 第 28 回 日本医学会総会 学術講演 (学術講演収録 DVD)
高齢者の失いやすい生活機能、独居高齢者の特徴, 2011.4 月
- 2) 第 53 回 日本老年医学会学術集会 ランチョンセミナー
認知症と虚弱を支えるホームヘルスケア 2011.6 月, 東京
- 3) 6th Japan-Asean Conference on Men's Health and Aging, 2011.7 月, 鎌倉
- 4) 第 20 回 日本脳ドック学会 認知症について, 2011.7 月, 東京
- 5) 第 22 回 日本老年医学会東海地方会 認知症と胃瘻の諸問題, 2011.9 月, 愛知
- 6) 第 48 回 日本リハビリテーション医学会学術集会
長寿化した社会からみえる運動器障害、歩行障害への対策
～ロコモティブシンドロームとメタボと認知症～, 2011.11 月, 東京
- 7) 第 30 回 日本認知症学会学術集会 認知症診療・ケア体制, 2011.11 月, 東京

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし